

少子高齢と人口減少社会に対応した 生活サービスの抽出及び位置付け

Extraction and orientation of the life service corresponding
to less children aging and population reduction society

家村さゆり（隠れ本間研究室）

★研究の背景と目的

少子・高齢・人口減少社会

国民のニーズ
の多様化

人口構造の
変化

社会体制の見直し

仮説の立証

社会動向

生活サービス

★研究の方法

キーワード検索



仮説の設定

社会動向の整理 ↔ 生活サービスの抽出



仮説の信頼性を検証

デルファイ法による2回のアンケート調査

★仮説の設定(高齢化を例に挙げる)

◎社会動向

健康な高齢者の増加



独居老人の増加



高齢者の地域からの孤立



高齢者の安心・安全確保
の取り組みが発生

高齢化に伴う社会動向
(一部抜粋)



◎生活サービス

高齢化に対応する生活サービス
(一部抜粋)

サービス目的	サービス形態	サービス名称
高齢者の 生きがい	高齢者雇用 支援型	シルバー人材サービス
		ベンチャー支援事業
		IT講習会
	高齢者交流 支援型	高齢者利用施設訪問
		通所介護(デイサービス)
		スポーツ同好会
	地域貢献 型	高齢者ヘルパー
		子育てボランティア



アンケートの設問
項目に設定

★調査概要

●調査目的

少子・高齢・人口減少社会の**社会動向**及び**生活サービス**について、仮説の検証を行う

●対象分野：3分野

少子化分野(40人)・高齢化分野(41人)・人口減少分野(46人)

●調査の領域について

- | | |
|--------------|-------------------|
| ■安全(6項目) | □地域福祉(14項目) |
| □健康・救命(11項目) | ■ライフスタイル(6項目) |
| ■移動・交通(2項目) | □インフラ・ストック活用(7項目) |
| □日常生活(18項目) | ■生産性・効率性(5項目) |
| ■交流・教育(10項目) | □相談・情報提供(3項目) |

★設問項目について

●質問内容：「社会動向」「生活サービス」

□社会動向：「実現可能性」

選択肢

・実現可能性→「大」「中」「小」「なし」

【例：一定の児童数を確保するために学校の統廃合の動きが活発化する】

□生活サービス：「必要度」「普及時期」

選択肢

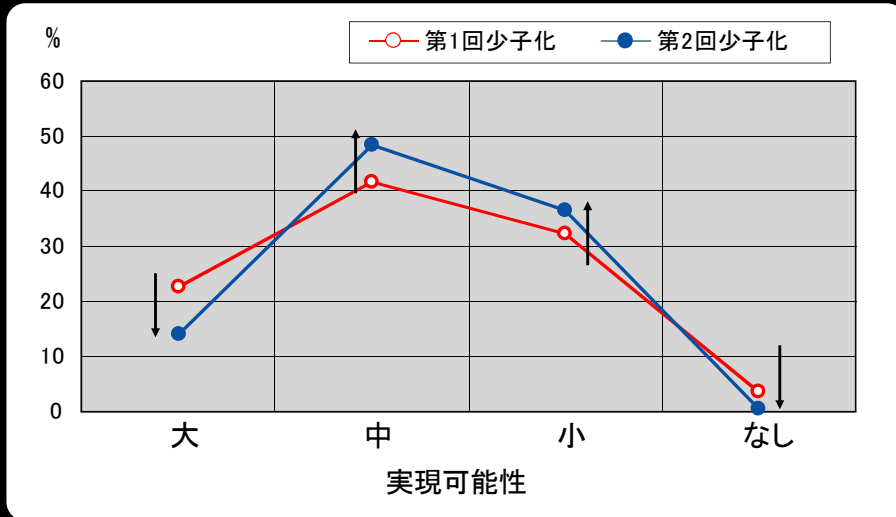
・必要度→「大」「中」「小」「なし」

・普及時期→「すでに普及している」「0～5年後」「5～10年後」「10～20年後」「普及しない」

【例：地域見守り型サービス】

★デルファイ法の効果

◎少子化分野の社会動向に対する2回の調査結果



★社会動向の実現可能性

◎点数化し、上位・中位・下位に分類

●少子化分野

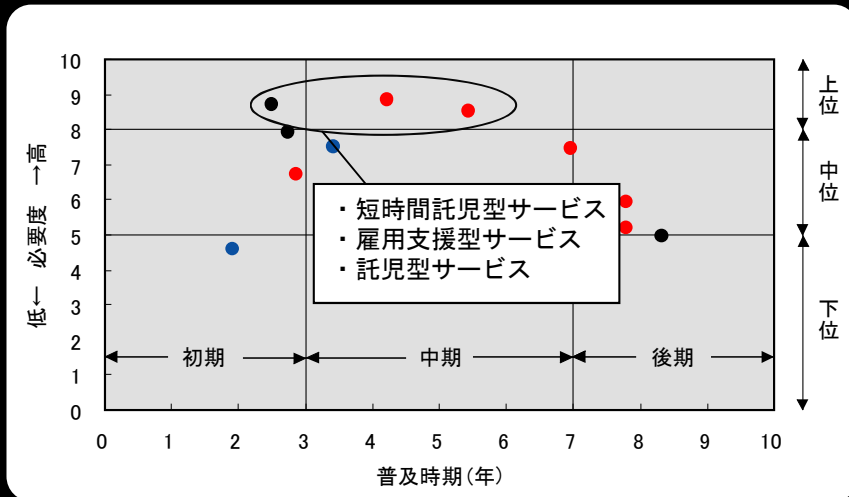
●高齢化分野

●人口減少分野

小項目	可能性	小項目	可能性	小項目	可能性
学校の統廃合の動きの活発化	上位	介護予防による医療・介護費の抑制	上位	人口格差→施設再編必要性	上位
多様な託児サービスの普及	中位	介護指導の徹底の必要性		過疎化→人口減少の著しい地域の増加	
女性の雇用支援活発化		高齢者向けサービス産業の成長	業務の外部委託化		
在宅保育サービスの活発化	下位	高齢者が主体の地域活動活発化	下位	住宅の取得が容易になる	下位
子供の学び・遊ぶ場の整備		自発的な住民主体の活動の促進		自動車依存の交通からの脱却	
ゆとりある子育ての実現		労働者に対する制度の整備促進		通勤等のラッシュ減少→生活のゆとり	

★生活サービスの必要度と普及時期

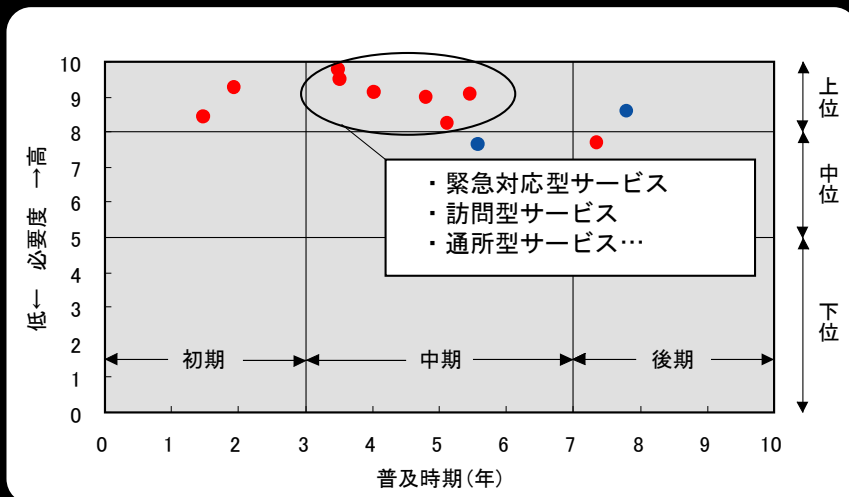
◎少子化分野



分類： ● 労働環境整備 ● 育児支援 ● 結婚・出産支援

★生活サービスの必要度と普及時期

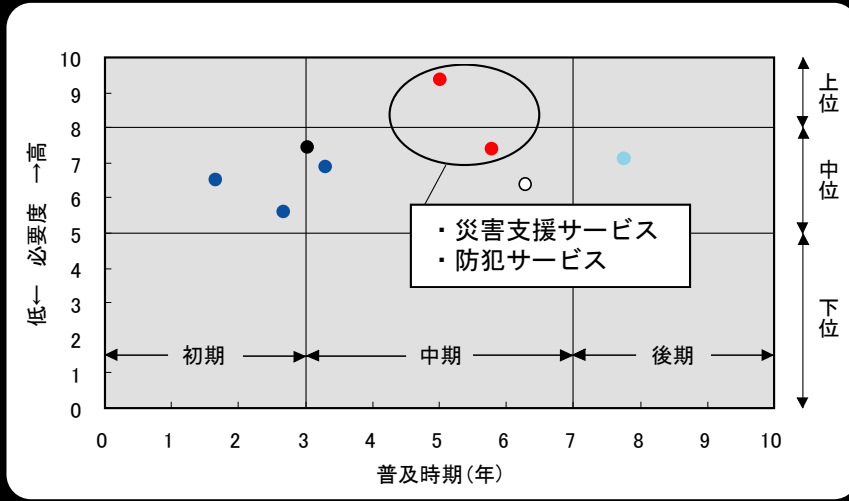
◎高齢化分野



分類： ● 医療・保健・福祉 ● 高齢者の生きがい形成

★生活サービスの必要度と普及時期

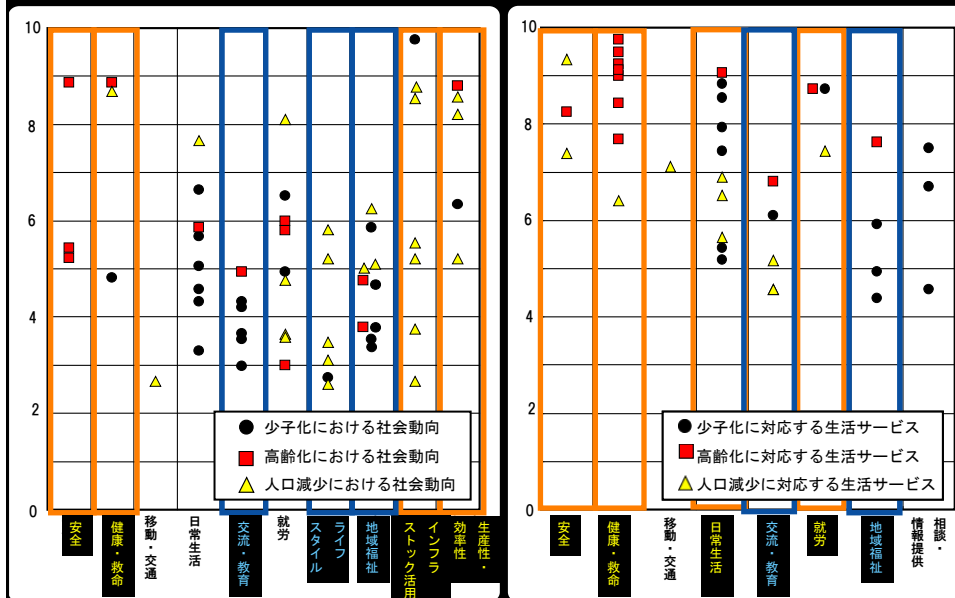
◎人口減少分野



★領域別の結果

◎領域別実現可能性

◎領域別必要度



★まとめ

- 実現可能性・必要度が共に**高い**領域
[安全][健康・救命]
- 実現可能性・必要度が共に**低い**領域
[交流・教育][移動・交通]
- 社会動向の項目数が多く、実現可能性・必要度が低い領域 [地域福祉]

★今後の展望

本研究の成果

社会動向の把握 生活サービスの抽出



都市計画

サービス形態 ネットワーク